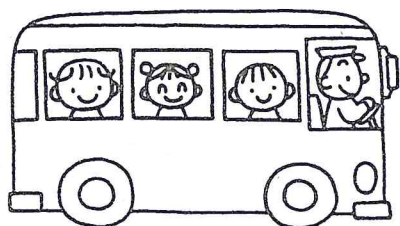


## 初めての一步

伊藤 昭子



昭和四十三年四月十一日、四才の娘が初めて経験することになった集団生活の第一歩がふたば園でした。

久々に古いアルバムを開くと、入園式の日「県立亀山高等学校附設ふたば園」と書かれた石の門の前で、不安げに園服姿の娘が立っていました。ここから、彼女の初めの一步が始まったのです。

桃組を担当して下さった牛尾先生の、やさしい笑顔に迎えられて、不安げな顔が、スナップを追う毎に楽しい表情に変わってきています。四月三十日、初めてのバス旅行は、上野城、お城公園の広場でのおゆうぎ、忍者屋敷での探検。そして夏の園服にかわる頃にはお友達もたくさんできました。七夕、鈴鹿サーキットへのバス旅行、運動会。クリスマス生活発表会では、保育科の実習の生徒さん達も加わって下さっています。楽器の演奏やおゆうぎなど、先生方のご指導も大変だったろうと思います。

黄組のバス旅行は松阪公園、六月には小運動会、七夕、お誕生会、十月には東山動物園への旅行等、多くのすばらしい行事をプレゼントしてもらって、みんな幸せでした。私が最も心に残っているのは「お餅つき」です。十二月半ばだったと思いますが、わが家にあった臼、杵、せいろなどをリヤカーで園まで運んで父兄も加わってみんなで餅つきをしました。

出来上がったお餅を、園児たちがまるめて、きな粉やあんこをつけてみんなでいただいたのを記憶しています。

このような楽しい思い出を胸に、巣立っていった子ども達の心の故郷が、この三月で、失くならうとしています。大切な初めての一步をタイムカプセルに詰めて、永久保存できないものでしょうか。

坂井 鈴子

長男は旧園舎、二男は新園舎でお世話になりました。もう20年も前になります。新しい園舎のベランダの屋根がドーム型でとても明るく都会的な趣に関心したのと、小さな椅子、ピンクの可愛い扉のトイレが印象的でした。四季折々の行事には親子で楽しんだこと等が懐かしく思い浮かんできます。今も時々ふと目にするのは出席簿です。休まずに登園したご褒美に金紙で桜の花を、ちょっと休んだときは銀紙で傘を、もう少し休んでしまうと赤い色紙で栗をと切り抜いて張ってもらってとても楽しみで励みになった息子の思い出と共に親にとってもいい思い出です。

“ふたば園”はなくなっても、その時その時の思い出は大切なものとしてそれぞれが心の中にそっと残していくことと思います。



## ふたばえんと私

柴田 澄子

私には数え年九十才になる母がいます。その母が思い出した様に、いつ耳にしたのか「ふたば園がなくなると、牛尾先生や、沢先生はどうなるの」と言います。

そんな時私は返す言葉を失います。

そう言えば母にとってふたば園は長い人生の節々になったのかも知れませんが、私の実家は昔で言うと師範道と言って、今の東小学校の前にありました。

毎朝亀校へ通う生徒をずっと見て育ちました。もちろん先生方もです。中には亀山市内に居住しておられる先生方も多くお知り合いの中でした。

だから私にとっては五十年からの付き合いになります。

私が中学の頃、高校の進路を決めるに際して、先生から保育科が出来る事、そして附属施設として「ふたば園」が生まれる事を知りました。私もこれだと決めて無事、入学する事になりましたが、その一年前にふたば園に関しては、先輩がいたのです。それは私より十才年下の弟です。

そして第一回のふたばえん児だったのです。開園は四月でなくて、六月頃だったと思います。高校の保育科主任だった中西先生とか、今村先生だったか、入園案内を届けてくださり、学校近くの四才児、五才児合わせて、六・七名だったと思います。それ由に色々な事が新しく若いお母さんが保護者の役員となり、制服もない中、その頃流行のサロベツ

ドの半ズボンと白いエプロンに青い登山帽で毎朝飛びだして通園しました。

そして日一日と通園にもなれてくると、家の前を通る生徒さんが「おはようー」、と声をかけてくれる様になり、その手にぶらさがる様にして行きました。

その手の持ち主は第一回保育科生だった牛尾弘子さんです。もちろん後の牛尾先生です。その頃の先生は私達保育科生にとっては、あこがれの先輩であるのはもちろんの事、目標でした。ところがそれ以上にすてきな先生がいたのです。

それは横山先生と池田志津香先生です。ふたば園開園に際して中西先生のたつての希望で赴任されたと聞いてます。横山先生は本校の下先生と結婚されて、下先生となり、池田先生はわずか半年位でふるりの四国へ帰る事になり、園児はもちろん、保護者、そして保育科生が、涙で顔をはらして、亀山の駅で見送りました。

先生が汽車の窓から、大きなお目々に涙をいっぱいためて、子供に手をふっていた事、しっかり目に残っています。その後新しい伊藤先生がこられ、二年目に入り、入園児も年長年少と二組になり、四十名の園児数に、栄養士の岡田先生も給食室も出来て腕を振るい、昼食が楽しくなり、「なんでも食べる良い子チャン」の、かけ声が生まれました。仲間も出来て、弟も増々ふたばえん児として十分な生活を楽しみ、少人数ならではの、友達への思いやりと、自覚が育くまれていった様です。

それから二十年後私も結婚して、息子が入園する事になりました。その頃は第二のベビーブームでくじ引きでしか、入れない様になり、園舎も広く大きくなって、園児の中には、親が車で送り迎えをする程でした。

それでも中身はやっぱり、先生と保護者が仲良く行事を進めていく件は変わりませんでした。それに担任の牛尾先生を中心に保護者会の仲間もいい関係で今もずっと子供共々付合っています。

それから三年後娘が入園する事になり、やはりくじ引きでは親がはなれたくないと、子供が箱の中に手を入れる度に、ヒヤヒヤしたものです。

それでも無事入園できて、担任の川戸先生にはいいご縁があり、子供共々赤いカーネーションをお祝いにつけた事もありました。

又卒園する時は新園舎が出来て式が催されて、沢先生の大きなおなかと笑顔の記念写真を撮りました。

これでふたば園もおわかれかと思っていたら、第一回の入園児だった弟の二男が無事入園する事になり、又保護者の代理等で、牛尾先生とお逢いするという場がありました。

いろいろ私には思い出される事ばかりですが、ふたば園はなくなり、先生のお顔も、園児の声が聞こえなくても、やっぱりふたば園と関係していた事に対するのと、それ以上に保育科があって充実した青春時代をすごせた事に感謝します。

ふたば園に対して御尽力された、中西先生、井川先生、今村先生は故人になられました

が、我担任だった宮島先生本当にありがとうございました。私のふたば園長い間、いい子供達を育ててくれて本当にありがとうございました。そしてふたば園バンザイ。

#### 安藤智恵子（裕美・篤史の母）

娘と息子がお世話になったふたば園がなくなると聞いてお世話になった子供以上に淋しい思いをして居ります。

子供を通じてたくさんの親御さんと知り合いになれ、遠足、夏の夕べを楽しむ会、運動会等々、楽しい思い出もたくさんあり、子供と共に成長させていただきありがとうございました。

ふたば園がなくなってもいつまでも心の中に思い出として残って居ります。

先生方大変お世話になりありがとうございました。

### 「ありがとう！ ふたば園」

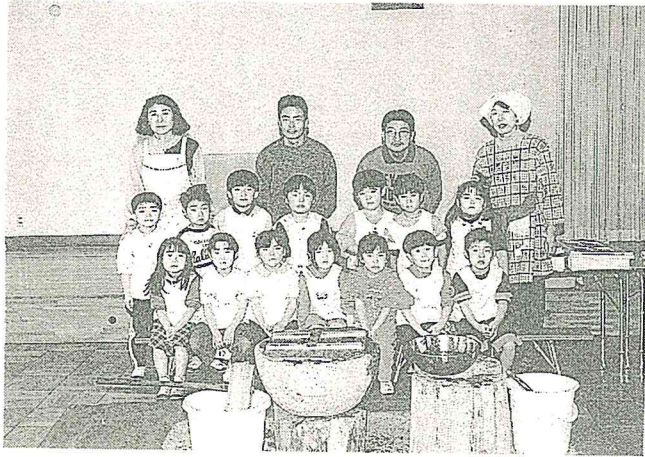
元PTA 伊藤栄子

「ふたば園」——なんてかわいい名まえだったんでしょう。この世に生まれて4年、本当に我が子がふたばになった頃、「ふたば園」に入園しました。♪「かわいいふたば、小さい葉、後には大きい大きい木、～」——3人の子どもたちがおぼえてきた大好きな「ふたばのうた」です。（我が家は、姉2人弟1人、3人とも牛尾先生に教えていただきました。）

鈴鹿から嫁いだ私は「ふたば園」など知る由もなく、主人は亀山幼稚園でしたが、主人の弟、妹（現在50歳を越えておりますが）が45年程前にお世話になったと聞きました。一番上の娘が入園を前に、仲良しのお友だちのお兄ちゃんが「ふたば園」に通っていたことから「ふたば園」との御縁が始まった次第です。…が、県立亀山高校の保育実習施設である「ふたば園」はなんだか地味でひっそりという印象を受けました。おなじみの牛尾先生と沢先生ですが、最初は「現役の先生?!」（園長先生のイメージでしたので）とのおトシ頃をいぶかりました。…が、心配御無用！お二人の先生は大ベテランの先生だったんです。保育一筋にやって来られた愛情あふれる先生。おトシを感じさせず、生命力あふれる子供たちと共にいつもその中心でバイタリティーあふれる御指導で学ばせていただいたのです。

今年中3になった娘は、先生方や高校生の姿を見て、自分もまた大きくなったら「ふたば園」で実習をして保母さんになりたいと夢を描きました。それから11年を経て、2003年、

ようやくその亀山高校入学を眼前に当のふたば園がなくなり、残念無念です。…が、長きに渡って何千人ものふたばの児たちを育てて来て下さり、21世紀も迎え、先生の定年とも重なり、「御苦労様でした!!」。大きな一仕事を終えて下さり、心より「ありがとうございました!!」。



子供らが生まれて初めて経験したことは、ほとんど「ふたば園」からの出発でした。子供の能力をたくさん引き出していただき、卒園の言葉をしっかりと発表できるまでに育てていただきました。親の力ではとてもできない偉業です。お弁当作りの苦手な私の大きな味方であった手作り給食で子供たちを健やかに育てていただきました。

子供だけではなく、親にとっても、初めてのPTA、そして会長というお仕事までプレゼントしていただき、親子共々貴重な園生活でありました。

「あそこにふたば園があった。」と懐かしむ日が近づいてきました。できれば次は、老人介護、福祉の舞台として活躍していただければと考えるのですが…。

茶色の帽子、茶色の園服——地味な昔ながらの伝統を受け継いできた「ふたば園」——優しさと愛情にあふれていました。3冊の卒園文集は、我が家の宝物となって残っていきはらずです。「本当にありがとうございました。」

## 伊藤 哲夫

我が家の子供は三人共ふたば園でお世話になりそれぞれに、思い出がたくさんあり、多くの友達もできた様子です。

一番上の娘は、引っ込み思案でした。この娘はふたば園での集団生活にほんとうについて行けるのかなあ〜と心配していたが、入園一日目帰って来るなり日記に「ふたば園はたのしいです。大好きです。」と書いてあるのを見て、ホットしたのを今でも覚えています。

私も役員を二年間やり園児の成長振りを目の辺りに見て来ました。先生方に多くの事を教えて頂き、いろんな事を体験し身に付け成長して行く姿はそばで見ている、一人ひとりに目を見張るものがあり、すごいと感動した事がたくさんありました。

子供達の共同生活の原点はふたば園で始まり今我が家の3人姉弟も大きく成長しています。ありがとうございました。先生方長い間御苦労様でした。これからも体に気を付け頑張ってください。